

心の国から現実界に出るには何の制約も障壁もありませんが
現実界から心の国に来るにはその往来カードを提示しないと入れません
無断で入ろうとすれば目に見えないベールから

ただちに警告音が発せられて一步も進めません
ベールは、原子雲の層でできていますから普段気づくことはありませんが
一步入ろうとしたら赤ランプの警告音が鳴りだす仕組みになっています
いろは姫は往来カードを持っていきますから自由に出入りできるのです

また往来カードにはシングルとダブルがあります

いろは姫のカードはダブル・タイプですから

夫の田之助とは共用カードになっています」

つる姫の話聞き終えた天明は、いろは姫のチャンネルを合わせて呼び出してしました。
た。

天明「いろは姫さん、天明です

ユングさんと二人で訪ねたときはうれしかった

今日は神示について聞いていただきたいので連絡しました

私は心の国の永住権を持つ身分ですが

行動を伴うことは現実界の皆さんと一緒にできない

日月神示の内容は全部で三八巻にまとめましたが、理解できる方がいなければ神示の意味をなしません

全般を通しての内容は人の道の目覚めを促すものですが、

そのことは、心の原点

いのちの原点に目覚めさとするのでしかありません

中でも『第一六巻』アレの巻にそれが集約されております

特に最初の『一六文字』が最も重要です

それを真剣に受け止めてくれる方はいろは姫ただ一人と見ています

現実界に残してきた妻の三典みねのりでさえ理解できないでいます

三典は往来カードを持っていないから

こちらから状況を見ながら、シグナルを送り続けています

現実界では神示と絵画を一心に守り続けてくれていきますから大感謝です

いろは姫は数字と文字の心結びをされて

心の国や天の川の往来が多いようですから

一六卷アレの巻をお守りできる第一人者と見受けました

現実界では妻の三典ともご縁を結ばれる日が必ず参りますから

その日のためにもと思い、今日このような交流をさせてもらいました」

天明の話を受けたいろは姫は、

いろは姫「天明さん、よくわかりました

現実界では多くを期待できませんが、わたしの心結びも同じことでございます

心の国から、また、天の川から結ばれる文字・数・色の媒体を通してのひびきを

はつきりと受け止めてくれる方は少ないのです

幸いにも、夫の田之助がそばにいただけでも心強く思います

夫と共用の往来カードを持っているのも便利です

神示の第一六巻は私の内面を知る最良の理解者であります

うれしく思います

私の心の所在地は、宝船の帆にも書いてある

食心の目は共時の目、その世界です

神示の一厘の仕組み「○ゝ」の世界はその世界だと思っています

食物たちが口から入り、人々の命となっていく

いのち育ての聖域の中にいると思っっています

現実界の人々には理解できそうもない

いのちの中心で育てられていると思えます」

天明「一六巻は最も中心となる神示です

特に、最初の一行目の一六文字にはその真髓が凝縮されています

原文

一八十一のキ七の七の三　〇九十一八十八八三

解説文

言答開き成り成るぞ誠言答は永遠ぞ

解説文

いわとびらきなりなるぞまこといわとはとわぞ

この神示を食心の目で読んでいただきましたこと
岩戸開きは、心の目を開くこと

人の世の平安はそれでこそ永遠なのであるということ、など
いろは姫さんが話されたことは真実なのです

天の川の「天意の法則」には、「食心の目は共時の目」という一節のあることを
つる姫様から聞いておりました

天にも通じる人の心こそ、永遠の扉開きです

現実界の妻の三典にもその旨をシグナルで知らせておきます

ありがとう」

天明はその二人の話の内容を、つる姫にも伝えました。

つる姫「天明さんというは姫の話は

いのち舟のナビ大王からモニターで聞かせていただきました

いのち舟に関することは全方向から収録されるシステムになっていますから

リアルタイムで通じています

二人の交信をうれしく思います

縁結びの大使としてはすべての縁組みを担当するではありません

万人万色の心をつる草を見ているわけでもありません

担当する縁組みは、その人たちにとって

運命的な要素を持つていることが大切です

その縁を結ぶことでよい方向性を目指していただくために

縁エネルギーを向けることとなります。

「縁はいのちの調和力」という「天意の法則」が大きな眼目となります

天明さんというは姫の縁結びが私の出番だったことはそこにあります

いいかえれば運命的出会いといえます

出会いによって片や神示の真髄を解くことができましたこと

片や神示第一六巻の一六文字が我が命であったこと

という運命的絵図面が点灯したことになります

こうして心の国では日々交信を重ねておりますが

こうした動きは、上の現実界では気づいていません

いろは姫は往来カードで出入りするから

向こうに行ったら、注意深く見てもらえば

心の国の動きが徐々に現象化していることを見ることができるようはずです

心の国にはあちらこちらに立て札が立っていて

「何事も思いが先のこの世かな」

「想えば通わすいのち綱」

これらなどは今の話にぴったりです

心の国に起きることは現実界にも姿となって現れることになっています」

ここで、ナビ大王から報告を受けたつる姫は、दैあい草の動きをナビ画像で追うことになりました。

広島のであひ草の点滅が激しくなりました。片や、三重県（菟野）のであひ草も異常な点滅を始めています。

広島 の点滅は、田之助とはソウル・ツアー以来の縁者であるオサダ姫でした。そして、三重県（菟野）の点滅は、天明の妻・三典からです。天明とは一心共同体です。つる姫が三心クルーを呼び出して、「広島 のオサダ姫のデータをモニターに入力してください」と指示をすると、ただちにナビ画像にオサダ姫の詳細データが映し出されてきました。

つる姫がデータを出させたのは縁を結んでいかどうかの判断資料とするためですが、ときにはデータなしで縁を結ぶこともあります。心の国の大地で育っている心のつる草の現況を見ることで、その善し悪しがわかることもあるのです。花の色合い、濃度、点滅力の強弱、草丈とその揺れの強弱、対象を見分ける直視力とその動きに対処する方向性などを見ることで、はつきりすることがあります。

つる姫には心の中が透けて見えるのも、大使に与えられた天の川からの特権です。三心クルーから送られてくるデータが、次々に映し出されてきました。

オサダ姫。広島市在住。大正一二（一九二三）年三月四日、福岡県八女で出生。一男二女の母親。幼い長男がいろりに落ちて大火傷。衝撃により意識世界が反転。重い心を背負い祈りの世界を歩む。心霊探訪の中から生命の真実を知り、やがて、独自の生命感を大宇宙に拡大して、自分探しの心の集いで講演活動。宇宙の真理、自然愛と慈悲の道を歩む。

このデータを見てつる姫は思いました。三重の三典は天明の妻ですが、天明は今、いのち舟の中です。心の国に永住する身分ですから、現実界で働くためには、妻にサインを送るのが一番効率がよいでしょう。三典が広島 のオサダ姫と激しく共振共鳴している

のだから、そのまま縁結びを実行すれば三典と天明の相互信頼が倍加するはず、つる姫はそう考えました。

オサダ姫は、自然界の真実に迫ろうとしているし、片や三典は、夫、天明の意志を受け継いで、天から取り次いだ神示の真意に迫り、併せて、遺作絵画の展開を続けています。両者の目指す先は、いのちのルート、いのちのふる里であるといえます。

二人の縁結びは、意義深く、人生転換の重要な要素が光っているとつる姫は判断しました。

つる姫「ナビ大王、これよりただちに広島と三重の縁結びを開始します

セツトの準備をして縁エネルギー光に二人の魂を交互に乗せて

オサダ姫の魂を三典へ

三典の魂をオサダ姫へ発信してください」

指示を受けたナビ大王は、手順よく万事滞りなく発信を終了しました。

ナビ大王「つる姫さま、発信終了。縁結び終了しました」

報告を受けたつる姫がモニターを見ると、広島と三重で相互に点滅していた『であい草』の明かりが停止していました。これで両名の交信は自由になります。これは心の国

の動きですから、やがて現実世界でもオサダ姫と三典は、魂の押し上げに似た感覚の中で、出会うことになるのです。

同時に、心の国の天明から発する妻の三典へのサインも、以前に比べてその光度が一段と増すことになりました。心の国から発する光度が増すことで、現実界での現れ方も、以前に比べて早くなっています。

つる姫は、天の川の親様から心の国に派遣された縁結びの大使役も、いよいよ大詰めにきていることを察知した。そして、いのち舟に二人の客人を乗船させることを親様から命じられたその真意はどこにあったのかを、考え始めていたのでした。

心の国で起こることは、現実界に直接的にまた間接的に必ず現象化される、それはつまり、縁を結ぶことは、人々にさまざまな人生の方向性を与えるということです。特に大使役の縁結びが人生に重要な方向転換を与える仕事を思うとき、その判断を取り違えることは許されません。

「縁はいのちの調和力」

という立て札が、心の国にはたくさん立っています。必ずや、縁を結ぶことで、お互いに、明るい道筋を立ててやらなければなりません。幸せになってもらわなければなりません。

せん。それが私の使命であったのだと、つる姫は思いを新たにしていたのです。

一息ついて、喉の渇きに気づいたつる姫が、ナビ大王からまた、天の川の清流を汲んでもらおうかと前を見たら、ナビ大王が忙しく近づいてきて、

ナビ大王「つる姫様

田之助が往来カードでやってきています

ぜひともつる姫様にお会いしたいと言っていますけどどうしましょうか」

ナビ大王の言葉を聞いたつる姫は、喉の渇きも忘れて、

つる姫「いいですよ

大丈夫ですよ、ナビ大王、すぐ会いましょう」

田之助には、この世（現界）と心の国を往来する往来カードがありますから、原子雲のベールをノー・チェックで通過することができます。わざわざ訪ねなくてもよかったです。天の川から酒田港に宝船で下ってきたときにお世話になっているし、共時性の元祖、ユングと、妻のいるは姫と交信の厚い天明も乗船していることから、それとなく、いのち舟を訪ねてみたかったようでした。

つる姫「田之助さん、しばらくです

急にどうなされたんです、モニターにメールでもよかったのに」

つる姫から心よく迎えてもらった田之助は、決まり悪そうにしてなかなか言い出せずにいきました。すると横にいたユングが、田之助の心の内を引き出して、

ユング「田之助さんは

オサダ姫の身の上とソウル・ツアーのとき一緒だった

Yさんとの共時性を知らせたかったんでしよう」

田之助「つる姫様

ユングさんの言うとおりなんです

話を持ち出さなくても心の国には筒抜けになってしまおうのですね」

と、話の話題がぼやけて要領が悪くなった田之助がいよいよどころどころになっていると、つる姫が、

つる姫「田之助さんしっかりしてくださいな

私から簡単に地上の現界と心の国のこの世界の関係を聞かせてあげましょう

田之助さんのいる所は現界です

こちらは心の国です

二つに分かれているけれど一体なんです

例えば、目の前に丸い透明な器があるとします

中央から下の部分が心の国、上の部分が現界です

その境界には原子雲というベールの層があります

今、田之助さんは現界からやってきましたが

あなたは往来カードを持っていたから通過できました

カードのない方はもちろん心の国には入れません

現界での役目を終えた方々は

自動的に心の国に永住権を移すことになっています

ここにいるユングさんや天明さんのような方です

心の国から現界に出入りするにはまったく自由です

何の制約もありません

そして一つ大事なことは

現界の人々が日ごろ思ったり、考えたり行動したりする一切が

心の国に情報となって降りてくるということですよ

心の国の心の大地に降りてくるのです

そして心の大地には三つの蔵があります

現界からの心を入れておく三つの蔵なのです

それは文字の蔵・数の蔵・色の蔵の三つです

文字の蔵には、文字的、象形的な心の一切の波動

数の蔵には、数に関する量的な心の一切の波動

色の蔵には、色彩的、視覚的な一切に関する心の波動

これらを『三心三蔵』といいます

それを管理担当するのがかずたま姫・もじたまの皇子・いろたま姫の三者です

三つの蔵には、現界の一人ひとりの個人情報すべてが

ファイルされて保存されています

現界の心は一刻一秒の漏れもなく

心の国の三つの蔵に収納される仕組みになっていますから

今、田之助さんが訪ねてきて、何か話そうとすることでも

すでにこちらでは分かっていることなのです

先ほどユングさんが田之助さんの話の内容を言ったように
すでに分かっていました

とはいえ、心の国の個人情報厳しく管理されていて
個人的なことは暗証登録によって操作します

個人の心の蔵を知ることができるのは

三心三蔵担当の三心クルーと心の国の縁結びの常駐担当官と

親様から特命を受けた縁結びの大使たちです

私は、特定の縁結びを担当する大使ですから

それ以前の縁結び事情に関しては心の国の常駐担当官に任せてあります

田之助さんが話そうとした内容のことは

前の常駐担当官がすでに縁結びされた情報内容ということになります

今、モニターで当時の状況を知ることはいくらでもできますが

それより現界に戻ってソウル・ツアー一行のことを知る

タマヒロ社長にお会いして訪ねることが一番です

これで少しは心の国のことが分かったと思います

どうですか田之助さん」

つる姫は、とてもやさしい笑顔で田之助を見ていました。

田之助は感激しました。今日こうして訪ねたことで知らなかったことを知ることができたのです。心の国は、現界の人心情報を収集して、その心の総合判断で縁結びをする国だったのです。

そのために、現界の人々から降ろされてくる心の管理は徹底されていました。三心三蔵の心の蔵の担当官を、一人ひとりのいのち舟に配置して、船長のナビ大王の指揮の下、年中無休の日夜を働いています。心の国のいのち舟のクルーは、現界の守り神なのです。
「寝ていても寝ないで守るいのちかな」

と、田之助は思いました。そして、この世は心と体の二層の世界、心の国と現実の物質社会の二層世界の仕組みであることを考えさせられました。

田之助「つる姫様、ありがとう」

迷惑をかけたけど来て良かったです

どうか天の川に戻らないでいつまでも心の国に居てください

お願いします」

つる姫「田之助さん、うれしく思います

私は天の川から派遣された縁結びの特命大使です

その仕事もあとわずかになりました

役目が終われば天の川に帰らなければなりません

天の川にウインクのような光の点滅を見たら

つる姫ですから忘れないでくださいね

さあ、現界に戻ってタマヒロ社長にお会いなさい」

つる姫から思いがけないうれしい話をたくさん聞いた田之助は、少年のように胸をときめかせて原子雲のベールまで来て、往来カードを提示すると外に出ました。

現界は動きの早い世界です。時間が流れ、距離空間があつて、すべてが立体的になっています。はげしい音の交差、そして人々の口からは、「偶然」「偶然」の音が聞こえてきます。

心の国では、時間が止まり、距離感はずゼロ、すべてが真実ストレートで、偶然などありません。即時即刻、現界の心と行動の波動が、個人別に収集され、三心三蔵の文字・数の蔵に収納されています。

そして、生命コンピュータシステムには、目に見える機器の物体は何一つなく、すべてが「光の操作」で運行されている世界、それが、心の国なのです。

田之助が現界に戻り、タマヒロ社長に会うための連絡を取ってみると、時間をつくって待っているという答えが返ってきました。場所は都内の早稲田通りだとのこと。

田之助は、稲穂に囲まれた田園風景が美しい庄内平野の育ちです。

早稲田通りを歩いていても、なぜか文字のひびきが爽やかで、稲田の風に吹かれている心地よさがありました。「田之助と早稲田」、これも共振共鳴です。

タマヒロ社長とは、ソウル・ツアー以来の出会いとなりました。

田之助「社長、ご無沙汰しました

忙しいなか時間をいただきありがとうございます

ただ今、心の国から戻ったばかりです

つる姫様や、ユングそして天明とも会ってきました

社長のご存じの方ばかりです」

タマヒロ社長「ユングと天明の名前が懐かしいですね

つる姫様にはあの節ご丁寧なあいさつをいただきました

びっくりしましたよ」

田之助「つる姫様は

天の川から心の国に特命大使として派遣された特定の縁結びの大使です

広島の元安川に専用のいのち舟でやって来た方です

あのあいさつのときにはスイスのユング博士も特別の客人でした」

タマヒロ社長「懐かしいですねえ

君も知つてのとおり僕のメイン・テーマは「ユングの共時性の発見」ですから

これからは精神性の向上と共時性の発現を

ビジネスに取り入れてより健全な企業形態を目指そうと考え、

その啓蒙活動に取り組んでいるところなんです

それで、君の話というのは…」

田之助「その共時性についてなんです

先ほど心の国から戻ったばかりですが

つる姫様、そして、特別客人のユングと

社長ご存じの、天明も今、一緒のいのち舟の中です

今回の一連の話は社長のソウル・ツアーが発端といつてもよいのです

その後、ツアーで一緒だった広島のオサダ姫とは

つる姫様によって縁結びができました

あくまでもこの縁組は心の国サイドの話であります

心の国の動きははずれ必ず現界に具現化することを

つる姫様にとくと聞かされています

心が現実具現化することは社長の共時性とビジネス応用にもびつたりです

心の国で縁結びの動きがあつてもこの現実社会では誰も気づきません

目まぐるしく動いているのに気づきません

年中無休で心の情報を微細に観察して

素早く縁組される心と心の世界はまだ地下の中です

縁者同士が必ず実を結ぶことを現実社会では『偶然』と呼んでいます

心の国には偶然などありません

縁ある心同志を時空を越えて結んであげています

社長！

心の国は縁結び専門の国ということを知りました」
タマヒロ社長「君の話聞いてみると心の国が

どこか別のところにあるような錯覚を覚えるよ
そうではないんでしょう？」

田之助「そうではないんです

先ほどつる姫様からそのことについて諭さとされてきたばかりです

心の国も現実も一つの器の中の一体なんだと言われてきました

心と体、心の国と現実の物質社会は

二層一体の生命体であることを知らされました」

タマヒロ社長「それはいい話ですね

すると共振共鳴共時性というのは

心の国で一刻一秒常に起きている心と心の縁結びの実態なんだね

となると共時性は心の国の当然すぎる当然の流れということになるね」

田之助「その流れがいつしか現実の目の前に現れると偶然だということになります

これじゃ偶然もたまらない」

タマヒロ社長「その当然の流れが当然の姿となる現実を見据えて

僕の提唱するビジネスにおけるニューパラダイムがあるわけでその柱になるのが

共振共鳴共時性現象であるのですよ」

田之助「今日は実に楽しいです

共時性発現の震源とも考えられるポイントがあまりにも身近なところにあるのに
ユングも天明もびつくりしていました」

タマヒロ社長「えっ！ 一体それはどういうことかね？」

田之助「答えはいろは姫のいう

『食心の目は共時の目』というフレーズの中にありました」

タマヒロ社長「いろは姫のことは

僕にもダブるところが多くある感じですから

『食心の目は共時の目』というフレーズに秘める真意は伝わる気はします」

田之助「さすがは社長！」

タマヒロ社長「いのちが命をつくる世界

誰も手をかけられない

いのちが命を育てる世界

その世界をいろは姫は「食心の目」というのじゃないですか？」

田之助「そうなんですよ、社長

つる姫様も天の川には食心の目は共時の目という

天意の法則があると言っております

いやあ、脱帽です！」

そのとき田之助はすでに童心に返っていたのです。

わたしは原子

小さな原子

地球も原子

大きな原子

いのちは原子

食の原子

食べる原子

原子の自分

わたしは原子

食の原子

ここまで唱えた田之助は、社長の前で寝込んでしまったのです。眠りから覚めた田之助は、会社を出てしばらくして、タマヒロ社長を訪ねることになった話の発端が飛んでいたことに気がつきました。

ソウル・ツアーでのオサダ姫とYH女史、ソウルのKK女史の三名に共通する共時性現象のことでしたが、今から戻るわけにもいかないし、共時性の立場から、またのご縁があればそのときの判断と思い、田之助は、タマヒロ社長のことをいのち舟の三心クルーにメールで伝えて、つる姫への伝言としました。

そのころ、いのち舟の天明は、しきりに妻、三典へのコンタクトを続けていました。相互思念というのか、妻、三典のシグナルも天明に同調波が入ってきます。三典の動きが活発化していることを受け止めていた天明に、三心クルーのかずたま姫から知らせが入りました。